
黄昏と魚

愛威慈郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黄昏と魚

【Nコード】

N1383K

【作者名】

愛威慈郎

【あらすじ】

滴り、たゆたいて、意味も無く。
慟哭の青。

ただ空の青さに怯えてたんだ

ほら、

今日も空を仰ぐ

少しだけ、

思い出したんだ

何って？

母さんのことさ

あ、

今、

身体の奥のどこかが

ズキッてした

この苦しいのって

一体なんなんだろう

悲しい時、

ちよつとだけ笑えたことが

強くなれたってことなら

僕は

いつだって

狂ったやつでいられる

母さんはあの時

強くなりたかったのかな

夜遅く

冷蔵庫の前にしゃがんで

一人で泣いてた

その姿をみて僕も泣いた

きっと僕は悲しいって感覚を

あの時初めて知ったんだ

思わず声が出ちゃった

今ならわかるけど

この感覚はあんまり好きじゃないんだ

僕をみた母さんは

水溜まりの目をして

笑ってた

望んでもいない空白が

僕の中を埋め尽くす夜

正確には空白なんてもんじゃない

僕が僕でしかないことを

忘れたい時間

つまり最も愛すべき人を

重荷に感じる瞬間さ

今ならわかるけど

この感覚はあんまり好きじゃないんだ

遠い空がまるで

頭上のすぐそこに感じるのが怖かった

乾燥した皮膚に鳥肌が立って

呼吸の仕方を一瞬忘れそうになるんだ

膨大すぎる時間、

寛大すぎる空、

見上げる僕は

既に奈落の底に在るかのように

母さんが死んだら

僕も死のう

なんて考えてる僕は

どんな顔して笑ってるんだろう

ただ空の青さに怯えてた

今ならわかるけど

この感覚はあんまり好きじゃない

僕をみた母さんは

水溜まりの目をして

笑ってた

きっと僕は、

ずっとその笑顔に怯えてたんだ

母さんが死んだら

僕も死のう

なんて考えてる僕は

また作った笑みを歪ませる

ほら、

今日も空を仰ぐ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1383k/>

黄昏と魚

2010年10月11日13時29分発行